

スターチスオリジナル品種育成の取り組みについて

1. はじめに

暖地園芸センターでは、本県特産花きであるスターチスのオリジナル品種を育成しており、これまでに紫、黄、白色の品種を育成しました。現在は生産現場から要望の多いピンクやブルー系の育成に取り組んでいます。特に本年度から育種規模を拡大し、育成のスピードアップを図っていますので、その内容を紹介します。

2. 育種規模の拡大

育種規模を拡大するためには交配後に多量の種子を採る必要がありますが、昨年までは採種を手作業で行っていたため毎年1,000粒前後しか採れませんでした(表1)。そこで、本年度はこの作業を機械化することで採種の効率化を図り、従来の約10倍量となる10,094粒の種子を採ることができました。

得られた種子は7月に播種し、4,801粒が発芽しました(表1)。発芽個体は無加温のガラス温室で育苗し、11月末までに抽だいしたものを早期抽だい個体として、1,962個体を選抜しました(表1、図1)。

今後、この中から育種目標であるピンクやブルーの花色の個体を選抜し、組織培養により増殖します。昨年までより多くの早期抽だい個体が得られたことから、選抜数を100個体程度に増やす予定です。選抜数の増加により有望な系統が得られる可能性が増すと考えられます。

表1 年度別の育種状況

年度	種子親の系統数	播種数(粒)	発芽数(個)	発芽率(%)	抽だい数 ^z (個)	選抜数(個)
H22	3	691	448	65	279	22
H23	7	1,681	974	58	803	37
H24	18	10,094	4,801	48	1,962	—

注)7月中旬播種(種子冷蔵なし)、ガラス温室無加温ポット栽培
z: 11月末までに抽だいした個体数



図1 発芽個体の育苗

3. これまでの選抜系統について

昨年までに選抜していた系統については、組織培養により増殖し、切り花品質や収量性などの特性調査を行っています(図2)。その中の1つでブルー系の花色である系統名「09D31」は、これまでの調査から有望であると考えられ、当センターで毎年1月末に開催している選抜系統の検討会においても評価が高かったため、現在、現地試作を実施しています。

今後、「09D31」を含む選抜系統について調査を継続し、広く普及を推進する価値があると判断されたものは品種登録出願を行う予定です。



図2 特性調査中の選抜系統

4. おわりに

スターチスでは花色の他に病害抵抗性品種や低温開花性品種なども求められています。そこで、当センターでは、今後も新しい育種技術を導入して育種の効率化を図り、従来長い期間を必要とした育種年限を短縮することで、より多くの競争力のあるオリジナル品種を開発していきたいと考えています。

(育種部 小川 大輔)

和歌山県農業試験場

暖地園芸センターニュース No.42

平成25年1月21日発行

編集・発行 和歌山県農業試験場暖地園芸センター

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

TEL 0738-23-4005

FAX 0738-22-6903

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/003/003.htm>

(この印刷物は再生紙を使用しております)